

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の分かりやすい理念を作りあげ、掲示している。	職員で話し合い、独自の理念を作成した。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は共有しており、日常のミーティングと月2回の勉強会、職員会で話し合い、実践に取り組んでいる。	玄関と介護職員室に明示している。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	案内図とともに、玄関に明示している。おりいぶ荘の広報誌にて地域に明示しているが、独自の広報誌は作成していない。	○ 地域の方や家族に、グループホーム独自の広報誌などを作って配布したり、話し合いの場を設けたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方で、入居者の知り合いの方の面会はある。散歩の際に、あいさつ等で声をかけ合っている。	○ 気軽に立ち寄ってもらえるような取り組みは行っていないので、今後検討したい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(老人会の行事・祭)などに参加し、交流を図っている。また、地域の方が併設の地域交流センターを利用する際、交流している。	地域の行事に呼んでいただき、参加させていただいている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	日常業務に追われ、地域の高齢者等の取り組みは行えていない。	○	地域の高齢者等に役立つことはないか、話し合いの場を設け、実施していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員全員で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。		物品の保管・管理場所について、再検討した。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を行い、業務報告やサービス向上において意見をいただいている。		意見をいただいた場合、改善に向けて話し合いの場を持ち、サービス向上につなげている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外では、あまり行き来することがない。	○	市町へ出向き、分からないこと等は、相談、助言を得るようにしたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	十分に理解できていない。	○	地域福祉権利擁護事業、成年後見制度について、学ぶ機会を設け、理解に努めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待への知識を持ち、職員による虐待徹底防止に努めている。	○	高齢者虐待防止法関連法の勉強会や、マニュアルの整備に努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、面接を行い、十分に説明し、話す機会を持っている。		十分に納得した上で、手続きを進めている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を、ホームの入口に設置している。また、苦情があった場合、職員間で話し合っている。		日常的に入居者に声をかけ、意見や希望がないかを話し合い、出された意見は解決に向けて話し合っている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	電話連絡や写真等の掲示、おりいぶ荘通信を送っているが、独自の通信は作成していない。	○	定期的にホーム独自の通信を作り、写真の送付や日常の暮らしぶりについて個別に報告していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に話し合いの場を持つたり、問い合わせ等の電話に応じ、ケアに反映させている。	○	今後は、家族が意見・不満・苦情を言いやすい関係作りに取り組みたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に話をしたり、勉強会や職員会で、意見や提案を聞く機会を設けている。		個別に話を聞いたり、会議の際に意見を聞く等している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務の調整を行い、対応できるようにしている。		職員の急な勤務変更等にも、臨機応変に対応している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職はなるべく抑えるようにしている。		今後も最小限に抑える努力をする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームの研修や勉強会、外部の研修に参加し、知識や技術の向上を図っている。		外部の研修については、研修報告書を書き、職員勉強会などで他の職員に周知している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、交流する機会を持ってない。	○	今後、同業者とのネットワーク作りに取り組みたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年3回、職員親睦会を行い、ストレス軽減を図っている。	○	今後は話し合いながら、環境整備を進めたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の取り組みや業績を、正しく評価するよう努力している。	○	研修や職員勉強会などに、向上意識が持てる内容を取り入れていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前に面接を行い、本人から話を聞くようにしている。		入所にあたっての不安や疑問点について、十分に話をよく聞き、受け止めている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前に面接を行い、家族から介護の悩みや不安を聞くようにしている。	○	家族の思いや体験をよく聴き、受け止めると共に、利用後も密に話し合う時間を設けたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、実績や要望をもとに、必要な支援を見極めている。		必要に応じて、他のサービス利用の調整を行う。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学を行い、雰囲気に馴染めるよう工夫している。		今後も本人や家族と相談し、納得したうえで、サービスが受けられるよう支援していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごしながら、学びあう関係を築いている。		入居者が孤独にならないよう、常に見守り、声かけするなど、配慮している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に支援の意向を聞き、信頼関係を築いている。また、面会時や電話連絡等により、状況を報告し、常に問題を共有している。		今後も報告・連絡・相談を続けたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族間の問題について相談を受けた場合、家族との関係に入り過ぎないように、配慮した上で助言している。		今後とも、良い関係作りを支援していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力により、行きつけの食堂や美容院等に行けるよう支援している。		知人や友人等が会いに来ている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同志の関係について、職員全員で情報交換し、孤立のないよう支援している。		入居者同士で、できないところを援助し合いながら生活している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても、併設施設内にいるときは面会に行き、関係を断ち切らないようにしている。また、契約終了後も広報誌を送っている。		今後も契約が終了しても、関係が断ち切られないように努力したい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が、入居者の思いや希望の把握に努めている。	○	把握が困難な場合でも、家族に話を聞き、話し合う機会を設けたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前のアセスメントや、日々の会話などを参考にしている。		把握が困難な場合は、家族に話を聞き、生活歴等を教えていただいている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々にできることを見つけ、役割分担し、心身状態の把握に努めている。	○	職員全員が、入居者の暮らしのながれや役割、心身状態の把握に努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回、介護計画についての話し合いを行っている。事前に、本人と家族の意見を聞き取りしている。		月1回の会議には職員全員が参加し、話し合いを基に、介護計画を作成している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて、見直しを行っている。変化に応じて、本人と話し合い、現状に則して計画作成している。		必要に応じて、職員間で話し合いをし、臨機応変に対応している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に日々の様子やケアチェックを行い、見直しに活かしている。		個別のファイルに保管し、職員間の情報の共有に役立っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じ、併設している事業所のリハビリ室を利用したり、交流事業に参加している。		本人家族の要望に向き合い、支援につなげている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア、消防、幼稚園等と協力しながら、支援している。		毎月ボランティアの訪問や、隔月に幼稚園との交流会を行っている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	おりいぶ荘、支援センター等と連携し、福祉用具の活用等の相談を受けている。	○	現在、グループホーム以外の介護保険のサービスを利用されている方はいないが、他のサービスが利用できるように支援していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	担当地区の地域包括支援センターと協働している。また、運営推進会議で助言をもらっている。		今後も継続して、担当地区の地域包括支援センターと協働する。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を聞き、かかりつけの医師を受診できるようにしている。		ホームの協力医療機関を利用する場合は、必ず本人と家族の了解を得ている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医に、助言や指示を得ている。		利用者の希望があれば、診断、治療を受けられるよう支援していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	おりいぶ荘の看護師と相談しながら、日常の健康管理や医療活用を支援している。	○	いつでも相談できる対応を整えたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が早期退院を希望した場合は、病院関係者からの情報により、早期に退院できるよう居室を準備している。		退院することが分かれば、入院先からの看護サマリー(看護要約)等を通じて職員に周知し、退院後の生活と職員の処遇が円滑に行えるようにしている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の意向を聞きながら、医療機関と話をして方針を決めていく。		今後も継続して臨機応変に対応したい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の対応について、職員間や職員と家族の間での話し合いは、現在行なわれていない。	○	該当者はいないが、重度や終末期の対応について、職員、本人、家族、医師との話し合いの場を持ちたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む先の関係者に対し、アセスメントや日誌などから、情報を伝えている。		これまでの生活やケアの工夫などについて、情報を伝えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング時、職員全員がプライバシーの確保について気をつけるよう周知している。	声かけや対応については、注意しながらケアにあたっている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の意思、願い、希望を重視した支援をしている。	分かりやすい説明を心がけている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりに合わせたケアができるよう、配慮している。	「○○しましょう」、「○○ませんか？」の声かけはせず、自分から「○○したい」と言ってもらえるように声かけする。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容、美容は希望があれば、行きつけの店に行けるように支援している。	化粧やマニキュア等、おしゃれができるよう支援している。中には嫌いな方もいるので、個別に対応している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、おいぶ荘の厨房で作っている。盛り付けの準備、食事、片付けは職員と一緒にしている。	月1回は、おやつ作りをしている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	それぞれの好みの漬物等を持ち込まれている。賞味期限や生もの等は確認している。	食べ過ぎや賞味期限等、本人達と調整しながら、支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録表に記入し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。		現在、全員がトイレを利用している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望を聞き、入浴支援を行っている。入居者と職員が、マンツーマン入浴を支援し、ゆっくり入浴できるよう支援している。		入浴記録表を使い、回数等もチェックしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの希望に添って、臥床時間を支援している。		一人ひとりの生活のリズムを大切にして、支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに合った役割分担ができ、生活のリズムが整っている。	○	気晴らしに、いつでも散歩に出かけられるよう支援したい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を管理している方もおり、家族と買い物に出かけられるようにしている。また、一人ひとりの希望や状態に合わせて、管理を決めている。	○	今後は、ホームからも買い物に出かけたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望時に出かけたり、特別養護老人ホームの方にも散歩に行っている。		今後も、なるべく外に出かけられるよう支援していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	桜、つつじ、菖蒲等の花見や歴史博物館に出かけている。外出時、家族に連絡し、よければ付き添ってもらえるようにしている。		今後も個別に行きたい所の調査をしたり、家族とともに出かけられるよう支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かけたいところに電話したり、手紙を書いたりしている。		できる方には、自分で電話や手紙の住所の記入を行なってもらっている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	どの利用者も面会者が多い。毎日居室やホールで話をされている。		家族や友達などが訪問してくださり、他の入居者の方にも声をかけてくださっている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を行なうなど、職員全員で取り組んでおり、現在身体拘束はしていない。		マニュアルを作り、具体的な行為等を理解し、ケアにあたっている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵はなく、玄関にも鍵をしないで、職員の見守りで対応している。		今後も継続して、実施する。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、夜間ともに、巡回を強化し、十分に見守りを行っている。		今後もプライバシーに配慮した、ケアを実施していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	夜間は刃物、洗剤、薬は、入居者の手の届かない所に保管している。	○	一人ひとりの状態を把握し、危険防止に取り組みたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクマネジメント委員会があり、事故報告書を基に、一人ひとりの状態に応じた再発防止について話し合いをしている。		マニュアルを作り、事故防止に努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に応急手当等の勉強会をしている。		急変や事故防止時に適切に処置できるよう、今後も勉強会を行っていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者全員と一緒に、避難訓練を行っている。また、運営推進会議などで、地域に協力を呼びかけている。		今後も併設施設と協力して、訓練を行っていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族と話し合いの場を持つようにしている。	○	状況に応じて、臨機応変に対応していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員が入居者の状況を把握できるよう、ミーティングや連絡ノートを通して情報を共有している。また、異変時は併設施設の看護師と連携をとり、医療受診している。		毎朝バイタルチェックを行い、体調の変化の早期発見に努めている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の確認を行い、症状の変化についても観察している。		服薬袋に、名前、日付、時間を記入し、飲み忘れのないよう確認している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	トイレ誘導時の腹部のマッサージや、適度な運動も行っている。また、排泄の記録をつけることにより、排便のコントロールに役立っている。		水分補給や体操等で、自然排便ができるよう取り組んでいる。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声かけや介助を行っている。		週1回、歯科の往診にて指導を受けている方もいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養士が献立を考えている。水分は定時の水分補給に加え、随時の水分補給の声かけ・介助を行っている。		職員で食事量のチェック、水分量のチェックに努めている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策委員会があり、定期的に感染症に対する勉強会を行っている。		感染症マニュアルがあり、季節ごとに流行する感染症について、消毒や加湿等を行っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、食品調理器具の確認をしている。食品は賞味期限をチェックしている。		調理用具は、使用前に消毒を行っている。冷蔵庫やキッチンの消毒を行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	落ち着いた雰囲気を作るため、玄関周りに観葉植物を置き、玄関も民家風の引き戸にしている。		壁面の飾り付けを工夫し、家庭的な雰囲気作りに努めている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは中央吹抜から自然光を取り入れ、適度な明るさを確保している。全体的に民家風の造りにしており、浴室は家庭浴槽を使用している。		季節感を感じられる飾り付けを行っている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子、テーブル、ベンチ等で、入居者同士で思い思いに過ごしている。		自由に過ごせるよう、椅子、ベンチ、テーブル等を置いている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとチェストは備え付けであるが、使い慣れた生活用品を持ち込んでいる。		家族と話し合い、本人が使っていた物を持ってきていただいている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日換気を行っている。ホールには温度計を設置し、温度管理に努めている。		冬でも時間を決めて、換気を行っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、ホールに手すりを設置し、浴槽内に滑り止めマットを設置している。		トイレは、車椅子で使用できる広さを確保している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ホールに大きな時計、日めくりカレンダーを設置している。		理解できない方に対しては、その都度、丁寧に声かけし、納得していただいている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1階玄関外に菜園を整備し、野菜の苗を植えて栽培している。		職員と一緒に庭を散歩したり、園芸を行っている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)